

支部だより

2019/03/05 No.23 東京支部事務局

2019年JNP東京支部活動のスタート（定期総会報告）

1月19日（土）、2019年（平成31年）JNP東京支部定期総会が、中小企業会館・銀座に於いて、午後3時より開催、1-8号議案が満場一致で承認され、東京支部2019年の活動がスタートしました。

定時総会は、会員29名中、出席者20名、委任状提出6名、欠席3名ということで定時総会成立を確認した後議案の審議・承認が行われ、無事終了しました。



私が支部長を引き受けてから今まで、以下に示した支部運営方針を基に、皆さんと一緒に支部運営を行って来ました。これからの展開についても支部運営方針は継続しますが、2019年度以降は、以下のような方向で運営していきたいと考えています。

◆支部運営方針

- 和気藹々、写真を通じた楽しい交流（風景写真を通じたコミュニケーション）
- 双方向による撮影技術の研鑽（各自の撮影技術の向上）
- 自由な雰囲気、自由な交流が出来る支部運営（会員数最大30名程度）

◆2019～2020年のテーマ

- 「JNP東京支部ここにあり！！さすがと言われる東京支部！！」を目指す。

◆以下を重視した2019年度活動

- 定例・特別研究会の充実、外部発表による撮影

技術のレベルアップ

- ・定例研究会、特別研究会での研鑽
- ・支部作品展での作品発表
- ・成果の外部（フォトコン、公募展等）への作品発表等

●JNP本部・他支部との交流によるコミュニケーション拡大

- ・JNP大撮影会への参加と交流
- ・他支部作品展訪問・鑑賞と交流 等

●外部発信による東京支部認知度向上、会員拡大

- ・「支部だより」による活動内容の発信
- ・FB活用による活動状況の発信
- ・JNPニュースへの投稿
- ・取材依頼への対応 等

特に、撮影技術のレベルアップに対しては、昨年と同様、写真家・山口高志先生に講師をお願いし、定例研究会（講評会）、作品展、撮影会等でのアドバイスを通し、写真に対する考え方、各自の作品、撮影技術に対するアドバイスをいただく予定です。

また、外部発信については、各種発信方法により、作品展、取材撮影会、2019大撮影会を通し、多くの風景写真家、JNP本部・他支部の方々、社友の方々への発信を行う共に、コミュニケーションを拡大して行く予定です。

今年度、支部長として再任され、後2年、皆さんと共に東京支部を盛り上げて行く所存です。

支部運営については、役員と新たに役員をサポートする方をお願いし、メンバーの方々の要望を取り入れながら、支部運営方針に沿ったスムーズな運営をと思っています。

今後ともご協力のほどお願い申し上げます。

P.S. 定期総会終了後、引き続き山口先生による新春講演「完成度を上げるための構図づくりの基礎」、および「がんこ・銀座1丁目店」にて新年会が行われました。（文責：戸張眞）

2019年東京支部新春撮影会「白馬周辺の冬景色」

2019年1月26-28日の3日間、「白馬周辺の冬景色」を狙い、白馬村にある長谷寺の大杉、白馬大橋、大出の吊橋、青鬼集落、さらに、高瀬溪谷、仁科三湖、白沢峠などを廻^{めぐ}って、2019年東京支部新春撮影会が開催され

ました。

参加者は、他の撮影会との重なりもあり、残念ながら7名という少人数による撮影会でしたが、朝・昼・夜と楽しい3日間でした。



今回のガイドは、「カントリーインかしわばら」のオーナー柏原さん。少々話が長いですが、白馬生まれの白馬育ち、白馬を知り尽くし、多くの撮影地を案内していただいた。

初日は午前11時半集合、まず、信州手打ち蕎麦で腹ごしらえ、曇り・雪が舞う状況だったので、まずは宿舎周辺での風景（1本の木、神社の大杉、大出公園・・・雪が降る中の撮影）夕方近く青鬼集落へ。青鬼集落は、茅葺の民家が多く雪深い場所にあり、この時期、住民のほとんどが白馬村の方に下りているとのこと。茅葺屋根の民家は夕暮れ時が良く似合う。暗くなるまで撮影。

夕食の後は、いつもの通り、部屋での2次会・・・支部運営、写真談義、自慢話に花が咲いた。

翌朝は、天気予報（雪）がはずれ、晴天。朝5時半に宿舎ロビー集合。

早朝は、白馬大橋からの撮影は、川霧は出なかったものの、朝日が入ると黄金色に輝き素晴らしい光景を見せてくれた。

朝食後は、再度、白馬大橋での撮影を經由し、仁科三湖、高瀬渓谷そして、夕景を期待し、白沢峠へ。最終日は、松川下流の橋から、白馬三山を背景に撮影。

そして、朝食後はゴンドラに乗り、岩岳スキー場ゲレンデからの荒々しい白馬三山、周辺のブナ林の撮影で3日間の撮影会を終了した。

撮影会は、3日間とも雪という予報の中で開催されたが、幸運にも一日半は晴天に恵まれた。参加者の日頃の行いが良かったのかも???（文責：戸張 眞）

雑誌「風景写真」“X-T3にほんを巡る”取材撮影会

去る2月2-3日の1泊2日の日程で、隔月刊誌「風景写真」“X-T3にほんを巡る”取材撮影会が行なわれた。

今回の取材撮影会は、富士フィルム、風景写真出版そして日本風景写真協会の共同企画で進められているもので、今回が17回目。

富士フィルム、風景写真出版のスタッフの方々、プロ写真家・佐藤尚先生そして、JNP落井会長、東京支部メンバー12名による取材撮影会。



取材依頼のお話 came から、撮影地をどうするか?悩んだ結果、奥日光・日光方面に決めた。

中禅寺湖湖畔の“しぶき氷”、龍頭ノ滝の“氷爆と溪流”そして、霧降高原・六方沢の“雲海と日の出”、裏見ノ滝の“氷爆”。

午前10時半に東武日光線駅前集合——電車で来る人・車で来る人——車5台に分乗し、一路第1の撮影地（中禅寺湖湖畔）へ。車を降り、湖畔に出ると風が強い。

湖面は荒く波打っている。寒い。約1時間半レンズをしぶきで濡らしながらの撮影。

その後、昼食。美味しいお蕎麦、うどん、豚の生姜焼き定食・・・各自好きなものを食べ、早、撮影の話で盛り上がる。

昼食後、龍頭ノ滝を經由し、早めに今夜の宿泊先である大江戸温泉物語グループ「日光霧降」へ向かう。

ホテルでは、佐藤先生の講演およびX-T3の使い方説明があった。佐藤先生の写真を見ながら先生の風景写

真に対する取り組み姿勢をうかがい、目からうろこの体験だった。

そして、富士フィルムの工藤さんを交えてのX-T3の使い方説明。

終了後は、いよいよ楽しみ夕食・懇親会。皆、喉がからから・・まずは、中ジョッキで乾杯！！ 実にうまい！！ ここでも食べながら、飲みながら写真談義が続く。ほんとうに話は尽きない。

夕食後は、例の如く、メンバーの部屋に集まり、コンビニで買い込んだビール・焼酎・ワイン・梅酒で乾杯。落井会長、佐藤先生、富士フィルム、風景写真出版の方々を巻き込み酒盛り。

一段落したところで落井会長の部屋に移動して3次会、4次会、最後の人は、2時を過ぎたとのこと。いつものことだが、皆さん、本当にタフです。

翌朝は、期待を胸に朝5時半にホテルロビー集合。六方沢駐車場に向かう。途中、空が赤らみ、良い形の雲も出ている・・・期待出来そう！！ 駐車場到着後、X-T3をセットし、各自撮影に入る。素晴らしい光景！！

7時50分に早朝撮影を終了してホテルに戻り、朝食バイキングを楽しんだ後、出発準備およびチェックアウトを完了した。

チェックアウト後は、今回の取材撮影会最終撮影地・裏見ノ滝駐車場を目指し出発。裏見ノ滝は、駐車場から徒歩で登り約20分、結構辛かったが、滝に着くと皆、欣喜雀躍——タイミング良く滝に虹が掛かっている。予想もしなかった虹に、皆口々に「よいね！素晴らしい！」と言いながら、何度もシャッターを切った。皆さん、満足の行く作品が撮れたのでは？

取材撮影会は初めての経験だったが、お天気にも恵まれ、とても楽しい撮影会であった。

このような機会を与えて下さった富士フィルムの方々、風景写真出版の方々、そして日本風景写真協会会長落井俊一氏に、あらためてお礼を申し上げたい。ほんとうにありがとうございました。

取材記事は、隔月刊「風景写真」5-6月号に掲載されるとのこと。誰の作品が？ また、誰の顔写真が掲載されるか？ 発刊が待ち遠しい。（文責：戸張真）

東京支部に入会して

昨年11月、知人の誘いを受けて某写真展をみに富士フォトギャラリー銀座に行きました。いくつかのフォトクラブの作品展が同時開催で、その中の1つは日本風景写真協会東京支部でした。ついでに気持ちで入場しましたが、展示作品に衝撃を受けました。「ぼくもこういう写真を撮りたいんだ」と心の中でさげびました。

場内を何回もまわり、正確には覚えていませんが、少なくとも3回くらいはまわったと思います。当番の方に尋ねてみたら、「東京支部と一緒に活動しませんか！！」のチラシを渡されたうえ、「12月に定例会があるのでよかったら見学に来てください」と誘われました。お言葉に甘えて定例会にお邪魔し、山口高志先生による写真講評会の実況をみました。写真一枚一枚に対し、構図、色彩、露出などいろんな角度から丁寧に分析し、撮影の上達に大変役立つ講評でした。

定例会後の懇親会にも参加し、飲んだり話したりして、皆さんは写真という趣味をすごく楽しんでいると感じました。私もぜひ仲間になりたいと思って入会した次第です。

今後、東京支部の皆様と色々な活動をするのとともに、先輩方にぜひご指導をいただきたいと思いますので、宜しくお願い致します。（文責 与謝国平）

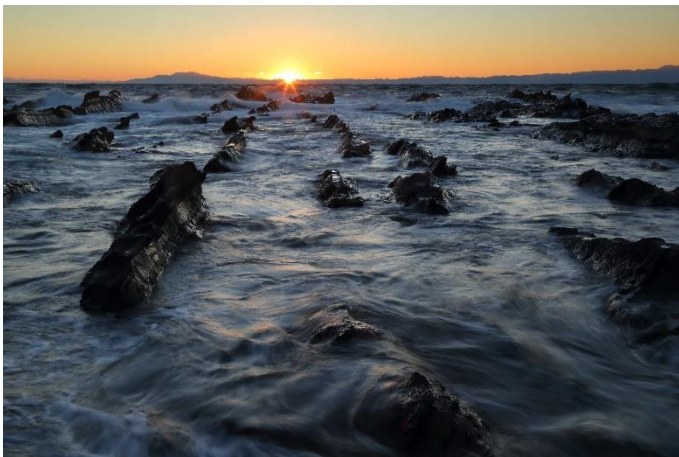
“私のお気に入り撮影スポット” 2019年第1回

私が紹介するのは神奈川県三浦半島南西部に位置する荒崎海岸です。

ここ数年は、冬になると通い始める夕景の撮影地となっています。何故、冬なのか・・・主に理由は3つあります。1つは夕日が沈む方向です。沖に向かって伸びていく岩礁の方向に夕日が沈む位置が理想的です。2つめは澄んだ冬空から放たれる夕暮れの光です。空の光を反射する岩礁の色合いが美しく、また濡れていなくても光を反射することがあるのでとても不思議です。

そして、3つめは変化に富んでいて撮影しやすいということです。冬の季節に限ったことではないですが、潮の満ち引きで岩礁の見え方が変わり、波の高さや勢いによって動感の表現もいろいろと変えられますので構図を工夫することができバリエーションが増えます。それ以外にも、岩礁に生えるアオサを絡めて季節感を醸したり、釣り人を点景にしたり、またはスナ

ップ的に撮ったりと被写体に尽きることはありません。雪景色の撮影の合間にちょっと近場で撮影したいというのにはちょうどいいかもしれません。



現地までのアクセスなのですが私の場合はマイカーだと都心を抜けるのに渋滞に巻き込まれるので電車とバスを利用しています。京浜急行線の三崎口駅から荒崎行きのバスに乗り 20 分程度で終点荒崎に到着します。そこから徒歩で 5 分程度で荒崎公園に到着します。公園の中は広いので自由に歩きまわってあちこち撮り歩けますが、撮影に夢中になって気が付いたら満潮で足元暗くて立ち往生という場所もありますので潮位の変化には要注意です。（文責：山田智一）

編集後記

2019 年 3 月上旬の今日、「支部だより No. 23」の編集がだいたい終わり、編集後記をひねり出す段階に入りましたが、寒くて調子が出ません。つい一昨日まで暖かったのが、春、はる、ハル〜ッ！ とウキウキして、気の早いわたしは冬の衣類をほとんどしまってしまったのに、今日はまた少し寒いのです。

とはいえ、三寒四温といいます。寒い日が 3 日続いたら暖かい日が 4 日間続き、また寒くなり・・・を繰り返しながら、だんだんに暖かくなっていくわけです。なぜなら、寒い日 3 日に対して暖かい日が 4 日だから、地表は次第に熱を蓄え・・・

わたしは、「三寒四温」というのは上述のような意味だと、なんと 60 年近く！ 思ってきたのですが、この度この原稿を書くにあたり念のため調べてみたところ、少し間違っていたことがわかりました。ウィキペディアによれば（他に辞書サイトなども見ましたが、ウィキペディアは間違っていないようなので）「もともとは中国北東部や朝鮮半島におけることわざ

であって、シベリア高気圧の勢力がほぼ 7 日の周期で強まったり弱まったりするからと考えられている。

しかし、日本付近の天候はシベリア高気圧だけでなく、太平洋の高気圧の影響も受けるので、日本では三寒四温がはっきりと現れることはなく、一冬に一度あるかないかという程度である。そのため近年では本来の意味から外れて、春先に低気圧と高気圧が交互にやってきたときの気温の周期的な変化、という意味合いで使用されることが多くなっている」だそうです。

というわけで、天気予報やニュースでは、「三寒四温」は冬である 2 月いっぱい、長くて 3 月上旬までに使われるのだとか。ですから、「三寒四温」を編集後記の話題にするには、もう今日明日に発行しても少し遅いみたいです。さて、困りました。



上は越生の梅林。拙くてお目汚しですが、今号の発行を急ぐための紙面の埋め草なので、お許しを！

皆様はもう梅は撮り終えて、今は桜の開花期に注意が向いている頃と思います。つい先日、日本気象株式会社が 2019 年第 6 回桜の開花・満開予想を発表しました。開花期は例年より早く、東京は 3 月 21 日。というわけで、皆様はもうじき、各地で開花する桜を追いかける超多忙な日々に入ります。皆様のご写運をお祈りします。（文責：泉屋ゆり子）

